

ま だま みち 真珠道の頭蓋骨

出土地：首里城真珠道跡

今回のまいコレでは、真珠道の発掘調査で見つかった、人の頭蓋骨を紹介します。

真珠道は今から500年ほど前につくられた、首里城从那覇の港へ続く道で、石畳が敷かれていました。石畳は第二次世界大戦から今までの間に壊されてしまいましたが、その下にあった頭蓋骨は運よく残っていました。調査で骨が見つかった際、周囲に他の骨がないか調べましたが、なぜか体の部分は全く見つかりませんでした。頭蓋骨を詳しく分析したところ、約400年前の20歳くらいの男の人だと分かりました。

首から上の骨だけが見つかったことに加え、喉の小さな骨までも揃っていることから、生首の状態で埋められたと考えられます。

発掘調査や分析から得られた情報をもとに想像してみると、①真珠道が整備される（16世紀頃）、②生首が埋められる（17世紀頃）、③石畳が壊され頭蓋骨だけが残し、今の道が整備され、現在に至る（1945年～現在）、という流れが見えてきます。なお、生首が埋められた時期と薩摩が攻めてきた時期が近いことから、なにか関係があるかもしれません。

一つ一つの事柄を整理し、様々な方向から考えることで、少しずつ遺跡を理解することができるのも、発掘調査の面白さの一つです。